

小中高 4月9日に入学式 各校長 新入生にエールを

三宅島新報

発行所：三宅島ふるさと
再生ネットワーク
〒173-0005
東京都板橋区仲宿2-1
TEL 090-4922-0798
FAX 03-3964-4065
発行人：会長 佐藤就之



三宅中学校の入学式



「島に誇りと愛着の教育を」 櫻田村長の施政方針

櫻田村長は、3月8、9日の第1回村議会定例会に於いて平成30年度「施政方針」を提案した。第一にあげたのは、「島

に誇りと愛着をもつ人づくり」の「子育てへの支援」。みやげ保育園の増築など「魅力ある学校づくり」。小中学校改修工事等の教育環境の充実、島内の外部講師や団体と連携した、民話・火山・農業・観光業の調査

間均氏)は第70回入学式を午後

1時30分に開式、教育委員会、村長、村議会関係者など来賓者にとつては多忙な一日となった。ふるさとネット佐藤就之会長も小・中学校の開式に来賓として参加した。小学校の堅山校長先生

は、入学児に、明日から元気に登校しましょうと優しく語りかけ、中学校の阿部校長先生は、思いやりの大切さを強調され、教育活動に対する地域の協力を求めた。また、三宅高校の中間校長先生

三宅小学校、三宅中学校、都立三宅高校の入学式が4月9日に行われ、3校合わせて27人の新入生が新たなスタートを切った。式では各学校の校長先生が、そのあいさつの中で新入生への熱い思いを伝えた。

平成30年4月9日(月)に、三宅村の学校関係は、一斉に入学式を行った。

小・中学校は2000年噴火前の3校体制から、1校に縮小統合されてから、第12回目の入学式となった。

三宅村立三宅小学校(校長 堅山浩人氏)は、午前9時開式、三宅村立中学校(校長 阿部仁明氏)は、午前10時30分開式から、続いて都立三宅高等学校(校長 中間均氏)は第70回入学式を午後

小学校児童数				
学年	男	女	計	
1	4	6	10	
2	5	13	18	
3	6	5	11	
4	6	7	13	
5	8	2	10	
6	12	4	16	
計	41	37	78	
中学校生徒数				
学年	男	女	計	
1	3	5	8	
2	6	2	8	
3	6	4	10	
計	15	11	26	
高校生徒数				
学年	男	女	計	
1	5	4	9	
2	4	2	6	
3	6	6	12	
計	15	12	27	

事務局便り

次号の三宅島新報70号の発行は7月1日の予定です。

毎日新聞が、本紙前号に掲載した国分さんの、原発事故で福島県の浪江町から避難し、三宅島で働きながら大学生と連携して「三宅島多世代交流プロジェクト」の活動など紹介した。

この国分さんの寄稿文を読み、毎日新聞の記者が取材に三宅島を訪れ、その記事が3月11日に大きく掲載された。事務局にも反響が寄せられている。7月号では、福島原発の実情に関し、国分さんに寄稿をお願いしている。

以前、島で健康診断を開催をしてくださっていた看護師の及川先生が、島民の防災意識を調査するために来島された。「島民の防災意識の高さを感じた」という及川先生に、調査を通じ感じたことなどを寄稿していただいた。



島を訪れた及川先生(左)と学生さん

及川先生が語る島民の防災意識

災害への備えが当たり前に

背景に火山との共生

三宅島の皆様、こんにちは！

今年の2月12日から2泊3日で久しぶりに三宅島に行かせていただきました。私が島を訪ねてきたのは、帰島後1年経過したところですが、島の方々にいろいろとお話を聞かせていただいたり、健康講座を開いて交流し

たりといった活動を約4年間させていただきました。東日本大震災が発生後は、しばらく足が遠のいてしまいましたが、今回久しぶりに来させていただきました。久しぶりの三宅島は風が強く、さすが三宅島、といった天候でした。

今回の訪問の目的は、島民の方々の防災意識についてインタビューをすることです。何故防災意

プロフィール

岩手県出身。赤十字の看護専門学校、助産師学校を経て、13年ほど助産師として病院に勤務。その後、いくつかの大学での教育経験を経て、現在は目白大学看護学部勤務しています。趣味はスポーツ観戦。特に野球が好きです。

識なのか、ということですが、最近は大きな自然災害が多く、いかに災害に

対して備えていくかが重要だと考えたからです。三宅島に通わせていただいていた当時から三宅島の方は災害に対する意識が非常に高いと思っています。防災意識について何かコツがあるのか、という質問をしても、皆様あまり自覚がなく、普通のことだから、というお話ししかいただけませんでした。おそらく離島で天候が悪ければ物流が途絶えてしまう環境にあると、何より火山との共生している島であるということが背景にあるのだと思います。

そして、災害に対する心構えや対策などについて、親から子へと傳承されていることを感じました。皆様からお話を聞きまして、防災意識を高くもち、それを維持していくためにはどのようなことが必要か、について考えるヒントをいただきたいと思っています。

夏休みには学生と

東日本大震災は本当に大きな災害でした。その

中で岩手県釜石市の中学生が先頭に立って高台への避難したおかげで多くの方が避難できた、ということがありました。「釜石の軌跡」と言われるものです。防災教育を強化していたことが、そうした避難行動につながったと考えられています。

近年は毎年のように大きな災害があり、人々の意識はだいぶ変わりました。行政の避難指示をうけて行動するのではなく、個人での備えや避難の判断も求められるようになってきたという印象です。三宅島の方々の高い防災意識の背景には何かあるのか、についてお話を聞き、医療専門職を目指して学んでいる大学生の防災教育に役立てていきたいと考えています。

現在検討中なのですが、夏休みに大学生を連れて三宅島に行き、島の方との交流会を企画したいと思っています。その際にはまたお話しになります。よろしくお願いたします。

会長時評

日本各地で頻発する自然災害

島でも次に向けた準備を



平成25年、多くの支援者が参加した「新年のつどい」。その繋がりが活動を支えてきた

援者の支えや阪神淡路大震災、東日本大震災の福島の原発帰還困難区域の「帰

三宅島新報の発行も69号となった。次号で70号となる。心より神奈川県私立向上高校新聞委員会の卒業生がつくる「DTPA」の皆さまと指導して頂いている先生に感謝を申し上げます。また、この新聞を三宅島1642軒全世帯(3月1日現在)に

三宅島新報も次号で70号となる。支援者の支えや阪神淡路大震災、東日本大震災の福島原発事故の被災された皆様との連携によりここまで継続することができた。その間様々な災害の検証をする中で、頻発する噴火や地震に対する防災対策と心の準備が必要なることを痛感している。2000年噴火から18年を迎え、次の噴火も予測される中、島でももう一度事前の対策を見直す必要がある。

配布している三宅村シルバー人材センターの皆さま、郵送など支えて頂いている事務局の皆さまと、なによりもご寄付を欠かさない支援者の皆さまのご協力があったればこそその活動の成果です。さらに今号の2面に寄稿されている及川先生など10年を超える三宅島支

「継続は力なり」で、今回の毎日新聞の記事など日本だけでなく、韓国テレビ特集、ドイツの新聞、アメリカの新聞記者などに取材され、何度も「三宅島新報」やネットのホームページの発信により三宅島噴火災害の現状を発信することが出来ました。

平成25年、多くの支援者が参加した「新年のつどい」。その繋がりが活動を支えてきた

大分県中津市の山崩れなど災害が発生している。また発生から2年もたつ熊本地震で仮設住宅や行政の賃借住宅で仮暮しの被災者は、3月末時点で約3万8千人上がると報じている。住宅整備が遅

日本の安全神話は

このところ噴火、地震、大分県中津市の山崩れなど災害が発生している。また発生から2年もたつ熊本地震で仮設住宅や行政の賃借住宅で仮暮しの被災者は、3月末時点で約3万8千人上がると報じている。住宅整備が遅

「継続は力なり」で、今回の毎日新聞の記事など日本だけでなく、韓国テレビ特集、ドイツの新聞、アメリカの新聞記者などに取材され、何度も「三宅島新報」やネットのホームページの発信により三宅島噴火災害の現状を発信することが出来ました。

これだけ繰り返している自然災害は、他国のように哲学とか美術、社会構造に重大な影響を与えているのかとの問題提起である。日本では、忘却即ち忘れようとする意志が働いているのではないかと指摘だ。それが原発安全神話を創り出しているなどとは、三宅島の20年に一度の昭和期の噴火災害にも当てはまり、国の制度的制限に甘んじているのではないかと疑問がわく。例えば1983年(昭和58年)の阿古地区の大量の溶岩流によって埋もれた400棟の住宅や山林耕地。目の前の所有地の溶岩流は、植木鉢等にすれば高く商品として利用できる。しかし規制されて手が付けられず眺めてい

最近読んだ「震美術論」株式会社美術出版社発行は衝撃的だ。美術論は難解だが日本列島は「悪い場所」であり自然災害による破壊と復興、そして反復と忘却を繰り返している。

最近では、何でも想定外として責任の回避が横行している。ご用心!ご用心!

本書では、あまりにも被害が甚大で、心にも傷を負い「忘却」を選んではいないか、災害が起きたら「悪い場所」だから、次に必ず発生する。災害に備える事前災害対策と心の準備が無くてはならないと指摘している。

「自己責任」で帰島した。2000年ひく1983年は、17年だ。今や2000年から18年に突入した。

今回の2000年噴火では、4年半も帰島できず、更に高濃度地区として居住制限され地域が崩壊してしまい立ち直ることが出来ず、空白地域のままとなっている。これは、被災者島民に對峙した専門家集団と行政が手を組み、島民体験と要求を無視した結果である。規制はあるけれども、支援策や制度保証はなく

(佐藤)

三宅島のイベント紹介

楽しみ方盛りだくさんに



夏最大のイベント 三宅島マリンスコーレ21フェスティバル(商工会主催)

三宅島に観光シーズンがやってきた。5月は新緑とバードウォッチング、6月はメガネ岩ダイビング解禁、7月には牛頭天王祭やマリンスコーレが開催される。日本最大のクライミング施設でもイベントが開かれた。楽しみ方が盛りだくさんの三宅島の夏に、多くの観光客が訪れることを期待したい。

先ずは、三宅島交通案内から。

○東海汽船「JR浜松町下車で竹芝桟橋発 22:30発(念のため、ホームページで確認を)到着・朝5時頃の夏は朝日が昇る前後で美しい。☎予約 03-5472-9999

○新中央航空 調布飛行場から午前2便、午後1便がある。40分ほどで到着する。欠航もほとんどなく便利になった。☎0423-31-4191 ☎予約を。それぞれ夏の季節は、時間や料金も変わるので

ご注意を。

5月のイベント

5月は、バードアイランドと言われるほど野鳥の楽園だ。大路池を中心に観察会が開かれる。アカコッコ館・野鳥の会企画のバードウォッチングの日程が多く組まれている。ホームページや電話などで確認して参加を。☎04994-6-0410 三宅島三宅村阿古4188

6月のイベント

6月になると、いよいよ海が呼んでいる。メガ

7月のイベント

○牛頭天王祭 神着地区で毎年行われている。7月の第3土日、神輿が神着地区を練り歩く。○三宅村商工会主催の三宅島マリンスコーレ21フェスティバルが島をあげてのイベントとなる(写真)。例年花火も上がり

ご寄付者名

光安千久子様、佐藤宗ノ子様、佐藤就之様、吉田信行様、吉野文雄様、菊池千春様、吉島輝雄様、板倉美紀子様(平成29年11月7日～平成30年3月4日)

皆さまのご協力に深く感謝申し上げます。

【ご寄付受付先】

郵便振替口座

口座番号; 00120-3-545036

口座名称; 三宅島ふるさと

再生ネットワーク

編集後記

三宅島の新入生のみなさんご入学おめでとうございませう。学校生活を楽しんでください。

「三宅島新報」は次号で70号を迎えます。私がかかわらせていただいていたのはまだ10号程ですが、今後も編集作業に参加すること、今まで関わってきた先輩たちの思いや技術を受け継いでいきたいです。

(DTPA一同)